広島県知事・福山市長会談　議事録

（開催要領）

１　日　時：2026 年（令和８年）10 月 29 日（木）10：00～10：45
（ぶら下がり取材～10：55）

２　場　所：広島県庁　北館第１会議室（対面開催）

３　出席者：広島県知事　横田　美香
福山市長　　枝広　直幹

（意見交換項目）

議題１　（仮称）子ども未来館の整備に向けた支援について
議題２　若者に選ばれる職場環境づくり等について
議題３　地域未来戦略（戦略産業クラスター計画）を踏まえた産業振興策について
議題４　流域治水の推進について

（議事録）

＜議題１：（仮称）子ども未来館の整備に向けた支援について＞

●市長

子ども未来館、まだ仮称ですけれども、子ども未来館の整備についてであります。

県東部には、科学を中心とした幅広い分野を総合的に学ぶ施設がありません。天文台、あるいはプラネタリウム、そういう施設はあるんですが、総合的な自然科学に触れる施設、教育施設がありません。

私どもが考えている未来館でありますが、小学校高学年から中学生までをターゲットとしています。そして最先端のデジタル技術を活用した展示を展開する予定であります。発見や研究、創造活動を促し、楽しみながら学びを深める、そんな体験型施設を整備していきたいという思いを持っております。

改めてこの子ども未来館の意義なんですけれども、県全体の理系・デジタル人材の育成の教育インフラの機能を持っているものだと考えています。備後圏域の学校教育活動の一貫として利用していただける、そういうことも想定しております。

２つ目にですけれども、子どもたちが幼い頃から、地元企業の優れた技術に触れて、その魅力を体験できる、そんなプログラムを積極的に取り入れていきたいと思っています。これは地元への愛着にもつながっていくものと考えています。

こういう大きな意味を持つ未来館の取組でありますが、更に言いますと、将来的な若者の流出抑制にも必ずや効果があるものと考えています。

それから、もう一つの子ども未来館関連の魅力なんですが、「いのちの遊び場　クラゲ館」という、大阪・関西万博パビリオンのリユースをこの地でやろうとしています。未来館の屋外施設としての位置付けです。未来館やクラゲ館が立地するこの地域は、その他にも､体育館やあるいは市民交流施設、そういうものが集まる全世代交流型のエリアになります。関係人口や交流人口の増大にもつながっていきます。

そして、未来館が立地するエリアと福山の駅前、わずか２㎞の距離でありますが、これを一体として福山の都心核と位置付けながら、県東部の拠点機能をさらに強化していく。そうした思いにもつながっていくかと思います。

もちろん、駅前と未来館とのアクセスには十分留意をして、例えば自動運転バスを、今試行で運転していますが、そういうものでつないで、未来のモビリティを体感していただく。そんな仕掛けもしていきたいと思っています。

いよいよ、2029 年度末の供用開始に向けて、これまで温めてきた、あるいは議論してきた構想を具体化する段階に入っていきます。

ぜひ、今現在開設準備委員会にて議論しておりますが、そこに県にも御参加をいただきたいというお願いであります。加えて、未来館の展示内容、運営、広域的な利活用に対する助言を

いただきたい。また、教育施設ですので、県の教育委員会や他の県立施設との連携に関する御助言など様々な御支援をいただければと思っています。私からは以上です。よろしくお願いします。

○知事

ありがとうございます。今お話のあった未来館に関してでございますけれども、今こうした形で構想が進んでいるということだと思いますけれども、今市長が仰いました、まさに理系人材を育む、そして子どもたちに様々なキャリア教育をして、地域への愛着とともに、これからの未来を担っていく子どもたちが様々なことを、地元企業のものづくりの技術であるとか、あるいは科学技術の最先端の技術であるとか、そういったものをしっかりと吸収しながら成長していっていただく、ということは大変意味のあることだと思いますし、これからAIの普及が進む中で、ますます理系・デジタル人材であるとか、あるいはものづくりを支える人材というのが重要であると言われているところでございます。

広島県といたしましても、人口、転出超過への対応も含めて、この理系・デジタル人材の育成、そしてキャリア教育の充実に取り組んでいるところでございます。

少し広島県の取組をご紹介させていただきますけれども、今年度から、社会、地域に必要な人材を企業と連携して育成する、広島ならではのキャリア教育と言うことで、「ジョブジョビー！」という取組をやっているんですけれども、これは県内企業の皆さんが、子どもたち、親子連れが中心なんですけれども、いろんな体験ができる、ものづくり体験が出来る、そういうサービスを提供して、そこに参加していただくと言う取組なんですけど、参加企業も今120社になっておりまして、福山市内に所在する企業数も約20社ということになっております。参加人数は延べで1,800人ぐらいになっていまして、プログラム数も約70ということで、こういうことを広げながら、キャリア教育を進めていきたいと考えています。

そしてもう一つ、学校と地元企業がつながるためのサイトということで、「ミツカル！ひろしまカンパニー」という取組も昨年12月から実施しております。これは学校側が企業に連絡をして、企業の出前講座だったり、あるいは色々なプログラムを提供していただくということなんですけど、これも協力企業が374社になっており、うち福山市に本社がある企業数としては53社が参加していただいているところでございます。

こうしたキャリア教育にも、今回の子ども未来館が非常に重要な役割を果たしていくんだろうと思いますし、最先端のデジタル技術を体験できるということ、これは県内企業の魅力を伝えるようなプログラムとあわせて、非常に子どもたちにとってとても良いことではないかと思っているところです。期待しているところでございます。

一つ申し上げますと、私たちもキャリア教育ということで取り組ませていただいているんですけれども、最先端もそうですけど、こうした技術を支える、例えば論理的思考であったり、あるいはこれがどういう仕組みで成り立っているのか、どういった原理があるのかといった、最先端の技術のベースになるようなこと、それをしっかりと子どもたちに伝えていくことも大事だなと思っています。企業とも話をしていますと、時代の変化に左右されない、本質的な学びが必要だというお話も聞いておりますので、ぜひそういったところも取り入れていただきながら、この未来館が、「最先端」というものはどんどん発展していくと思いますので、そういった時代の流れにもしっかりとマッチした施設になることを期待したいなと思っているところでございます。

これまでも、未来館に関しましては、基本構想であるとか基本計画の検討段階で県も参画させていただいていたと伺っておりますので、このたびの準備委員会にも参画についてお声がけをいただきましたので、広島県としてもしっかりと準備委員会に参加してまいりたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

県としても、先ほど申し上げた県内企業のニーズの把握であるとか、理系・デジタル人材を育成する教育活動、また県立の施設との連携というところも考えられますし、あるいはまちづくりの拠点として、この備後地域の拠点性向上につながるような取組の検討ということもあるかと思いますので、そういったことについて、継続的に協議や意見交換をさせていただきながら、将来的には県内の子どもたちが地域への愛着を育んで、将来的には県内定着や回帰に繋がるように連携してまいりたいと思っています。

●市長

ありがとうございました。知事のおっしゃった本質的な学びということについては、改めて大切な視点として、準備委員会の委員の先生方にもお願いしたいと思っております。

つい我々は、日進月歩の科学技術に遅れない人材を育てることにばかり目を奪われがちなんですけれども、本当に常に基本となるものに目を向け、論理的な思考を大切にするということは非常に重要な視点だと感じました。

それからあと、技術はどんどん変わっていきますから、あまり展示型の施設にしない。いつのまにか、古い､遅れた施設を子どもたちに見せるということにもなりかねませんので、その都度内容が変わり､子どもが日々新たなものにも触れられる、そんなことにも心がけていきたいと思っております。

いずれにしても、県東部の子どもたちの教育施設としてふさわしいものにしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

＜議題２：若者に選ばれる職場環境づくり等について＞

○知事

若者に選ばれる職場環境ということで、人口減少というのが大変大きな課題でございまして、広島県全体で見ても、令和７年のデータでございますけれども、日本人の国内移動について見てみますと、やはり年代別で 20 代の若年層の転出超過が大きく、年代別の調査の中でも６割を占めておりまして、人数にして 4,000 人弱、3,863 人となっております。そして男女で見ると、女性の転出超過数は男性を上回っている状況です。この少子化対策ですとか、転出超過の課題については、福山市でも、昨年度「福山市少子化対策専門家会議」を開催されて、提言も受けられているということで、私も読ませていただきましたけれども、どうやって若者とか女性を惹きつけていくのかという観点で網羅的に書かれているなという、私としても参考になるなと思って拝見させていただいたところでございます。

その中で、やはり若者とか女性を惹きつけていくためには、まずは働く場所があって、自分が望むような職種があって、そして働く場所としても魅力が高いという状況を作っていく必要があると思っています。

そうした中で、充実した生活を送ることができて、やりたいことにもチャレンジできる、こういった環境を作っていきたいと考えております。

その中で、広島県として今やってることを少し紹介をさせていただきたいと思うのですが、１つは様々な企業の誘致があります。そして魅力的な職場を県内に多く作る、そういった企業を若者にしっかりと伝えていく、認知してもらう、この３段階でやっておりますけれども、今日は特にその働きやすい、あるいはチャレンジできる職場をもっと作っていこうというところを、ご紹介させていただこうと思います。

１つは「人的資本経営」の促進でございまして、これは働きやすさもそうなのですが、成長できる、あるいは挑戦できるというのがないと、なかなか若い方としても職種に対してあるいは職場に対して魅力を感じられないということでございますので、企業側が人材を資本として捉えて、従業員の例えば評価制度の構築であるとか、処遇の改善であるとか、あるいはキャリア形成に繋がるリスキリングの支援であるとか、この人材育成、人材への投資をやっているということをしっかり見える化することが大切であると考えています。広島県としても人的資本経営の手法とかメリットを学ぶ人的資本経営研究会を運営しておりまして、その中で人的資本情報をレポートという形で作成して、社内外に開示をしていくという取組を進めているところでございます。そうすることによって、従業員としても、自分の属する会社の課題についても自分事として考えていくこと、あるいは問題解決をしていこうという意欲が高まりますし、非常に従業員のエンゲージメントの向上につながります。あるいは採用において、学生がこういった開示レポートを読んで、興味関心を持ち、エントリーが倍増したという企業もあるので、地道ではありますけれども、企業に人的資本経営を広げていくという取組をしています。今、研究会の入会企業数は 524 社ございます。その中で、52 社の福山市の企業に御参加をしていただき、徐々にこのレポートの開示というものを進めているところでございます。

ぜひここにも、福山市の企業もたくさん参加をしていただきたいなと思っておりますので、ご協力をいただきたいということでございます。

もう１つは女性活躍についてです。この問題も徐々に進んではきていますけれども、やはり職場でどういったことをやったらいいのかわからないなど、あるいは業種によって状況も異なっておりますので、今年度からの取組として、業種ごとにアクションプランを作ってみたりとか、業種ごとに勉強してみたりとか、そういったことを進めているところでございます。今、情報通信と小売の分野で進めておりまして、情報通信においては、広島県の情報産業協会とともに県内大学生の就職の動向・意向であるとか、あるいは仕事内容というのをしっかりと共有して、意見交換を行う勉強会を実施しています。

そして小売業では、働く女性が非常に多い業種でございますけれども、これも広島県スーパーマーケット協会とともに、ジェンダーの枠を超えて、どう活躍をしていくか、みんながそれぞれ自分がなりたい姿を描いて活躍していく。そのために勤務体系や、独特の働き方の課題を解決するためのアクションプランについて策定していこうとしておりまして、そういったことを他の業界にも広げていきたいなと思っております。

そしてもう１つお願いを申し上げたいのが、誰もが働きやすい職場環境を作っていくということもそうですが、実際に性別に関わらず、色々な人たちが活躍しているという姿をしっかりと見せていくこと、見える化していくことも大事だと考えていますので、男女がともに活躍する姿を積極的に発信する取組として広げていきたいと思っているところです。これもぜひ福山市にも協力をいただいて、一緒にこういった見える化活動を進めていきたいと思っております。

そしてもう１つは今、民間企業が中心になって「はたフル」という取組をやっておりまして、これはそれぞれの企業に、従業員の方々が自分の働いてる職場を魅力的にして、それを発信していくことが必要だろうということで、企業ネットワークとしてつくったのが「はたフル」という取組です。今 43 社が一緒にやりましょうということで参加していて、福山市の企業も３社入っているということでございます。その中に「共働き世代の働き方ワーキング」であるとか、「ひろしま就職・UI ターン促進プロジェクト」といったプロジェクトが 10 個あるんですけれども、色々な会社の人たちが集まって共同でプロジェクトを進めておりますので、福山市としてもぜひ御参画いただきたいなと思っておりますし、福山市の企業にも取組を紹介していただいて、一緒に取り組めたらいいなと思っております。

●市長

はい。ありがとうございました。

まず私どもの少子化対策専門家会議の提言をお目通しいただいたという話で大変感謝しております。正直私が読んでみると、なかなか耳慣れない言葉が並んでおりまして、それは言ってみれば、これまでの少子化対策の切り口が一面的なものにとどまっていたという反省でもあるなと思っています。

専門家会議の提言は、少子化対策としては生活や就労環境、教育環境、これらが少子化に影響を与えているという事をしっかりと踏まえながら、総合的な対応をとっていかないといけないという示唆でもあったと思っています。その中でやはり職場勤労環境についても、少子化対策には、そして若者の流出には大きな意味があるということを改めて感じました。若者の流出に対する知事の認識と我々の認識は同じであります。やはり何とかして、こういう流れを転換をしていきたいと思っています。

３つの視点から御説明があり、そして、御要請もいただきました。大きな流れとしては全く同じ思いを持ちました。

人的資本経営の問題もお話を聞いて極めて重要な視点だと思いました。ぜひ本市としてもですね、市内企業に参加を促す、そして我々としても、県の取組や、先進事例をしっかり学びながら、企業にも伝える、そんな取組をしながら、県が進めておられます人的資本経営の促進に協力をしていきたいと思っています。

それから２点目の女性の活躍促進ですね。そして、性別に関わらず、誰もが個性と能力を発揮し、挑戦・成長できる、そんな社会に向けた取組について見える化していく。とても重要だと改めて感じました。ぜひこれも県とともに、あるいは県の指導をいただきながら、本市も取り組んでいきたいと思います。

最後に「はたフル」についてもお話をいただきました。まず、本市として、この「はたフル」に参画をさせていただきたいと思っています。そして、将来的には、市内の企業もこの「はたフル」に参加をしていただけるような環境づくりを進めていきたいと思っています。そのためにも、まず我々が参加をしたその成果を、今私達は「グリーンな企業プラットフォーム」という取組をしておりまして、その取組に賛同する企業は 1,100 社を超えております。そういう企業にですね、この「はたフル」というものの存在を紹介をしながら、１社でも多く参加につながるよう取り組んでいきたいと思っています。貴重なお話をいただき、ありがとうございました。

＜議題３：地域未来戦略（戦略産業クラスター計画）を踏まえた産業振興策について＞

●市長

地域未来戦略において、国は戦略産業クラスター計画を策定して、この中で広島県内の半導体クラスター、そして瀬戸内の次世代船舶クラスターについて、福山市が重要な拠点の１つとして位置付けられました。これまでの県の御指導に感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

本市には様々なものづくり産業が集積しています。鉄鋼、機械、金属加工、造船、加えて精密加工や部品製造など、まさに半導体関連産業を支える企業が、多く立地しています。そして、今後実装が見込まれますフィジカル AI を支えるものづくり企業もあるということで、この半導体産業関連クラスターの取組はまさに福山が前面に立って、汗を流していくべき、そんな取組のように思っています。そして、こうした取組は県全体への波及につながり、産業競争力の強化、持続的な経済成長に、必ずや大きな意味を持つと考えています。

このために、本市では、国、県の御協力をいただきまして、福山市半導体産業クラスター推進会議を立ち上げまして、明日 30 日には第１回目となる会議を予定しています。県からは、商工労働局の幹部の方に御参加をいただけると伺っております。感謝申し上げたいと思います。

まだまだ国の考え方、めざすべき方向性を勉強していかないといけないんですが、そのためにまずはですね、企業の成長促進につながるための取組、設備投資等々の課題を議論する場として企業の活動を支えていく投資環境を整備する取組、更には、そうした活動を人的に支える人材育成、この３つの論点はいずれにしても必要になるという考え方から、そうした部会のようなものを立ち上げまして、大きな方向性の取りまとめに向けて議論を進めていきます。年度内には取りまとめをしながらですね、さらなるクラスター形成に向けての取組を加速化していきたいと思います。これに向けて、県の御指導、御助言をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

○知事

ありがとうございます。明日、まさに福山市半導体産業クラスター推進会議を立ち上げられて、明日からスタートということで伺っておりますけれども、大変心強く思っているところでございます。県内には半導体関連企業としては 120 社を超える企業があるんですけれども、そのうち 40 社が福山市にあるということで、大変重要な地域だと考えているところでございます。

特に、半導体製造装置メーカー、それからパワー半導体メーカー、その他も部品加工だとか材料だとか、大変半導体産業としてもより裾野が広いところでございますので。さらに、よりものづくり産業の中心である福山市の企業が参入してくるということもぜひ促進していきたいと考えているところでございます。

県といたしましても、今設備投資だとかインフラ整備、そして人材確保の企業の課題に応じた支援というものをしていこうということで、体制を整えて進めているところでございますし、そして業界に精通する専門人材を活用して、いろんなアドバイスをしていただくというようなこともやっており、今そういった取組との相乗効果が狙える分野の企業誘致にも取り組んでいるところでございます。

そして、県内の企業の新規参入に関しましては、先日、半導体産業に関するセミナーであるとかマッチング等を７月に開催しましたところ、参加企業が 100 社以上になっていまして、このうち福山市内の企業が 20 社以上ということです。これも大変関心を持っていただいているということで、本当に心強く思っているところでございます。国の予算も今後 12 月の閣議決定に向けて、まだ詳細が見えていないところがあるんですけども、私たちとしても国にも要望していきますので、しっかりと関連産業も含めてですね、投資に対しての支援であるとか、様々な課題への支援というのを訴えていきたいと思うんですけれども、そういったことも含めて、ぜひ、福山市と協力をして、県内企業の支援の検討であるとか、あるいは伴走支援、連携して取り組んでまいりたいと思っていますので、よろしくお願いします。

●市長

よろしくお願いします。地域未来戦略、タイプA、タイプB、タイプCがあって、今我々がお願いをしているのはタイプA、国が計画を作るものですが、実はこれに加えて今私たちが考えているのが、一番下位の市町村レベルで計画を作って、産業振興するというタイプCなんです。福山は、今日知事もお召しのデニムを核とした繊維産業を改めて振興できないか、もう1回盛り上げることができないかということも併せて考えております。今後我々の方で計画を作る中で、県の御指導をいただくということになっていくと思いますので、またその時はよろしくお願いしたいと思います。

○知事

はい。まさに地場産業に関しては、もっと新しい展開をしていく必要があるかなと私は思っておりまして、ぜひ市の方で、そうした地場産業、繊維産業ということでございましたけども、ぜひこれからもまた新しい展開っていうのも、計画を作っていただいて、県としてもそういった地場産業支援という形でまとめていきたいと思います。

●市長

よろしくお願いします。

＜議題４：流域治水の推進について＞

○知事

これは水害対策でございます。今気候変動の影響によって、全国各地で水害が激甚化している、頻発化もしているということで、広島県としても平成 30 年の７月の豪雨というのが記憶に新しく、そのときの対応というのが今も続いているということでございますけれども、今年も８月の千葉豪雨など、大変大規模な水害が発生していて、しかも内水氾濫ということで今回大変注目をされたかと思っております。こういった内水氾濫を含めて「流域治水」という流域全体で治水を考えていくという対策が重要であろうということで、県としても今、流域治水対策を進めているところでございます。

こうした中で、水害に対しては福山市においても様々な取組、例えば手城川流域における床上浸水被害の解消を図るための、河川事業と連携したポンプ場の整備であったりとか、下水道の整備であったりとか、こういった浸水対策に大変積極的に取り組まれているということを認識しておりますし、河川だけではなく、農業用ため池の雨水貯留機能の追加であるとか、あるいは既存ため池の低水管理によって貯水容量を増加していくといった、農業インフラの治水機能を活用した取組も推進されていると認識しております。

県といたしましても、これまでの豪雨で、甚大な被害が発生した福川においても、対策と言うことで福川排水機場を整備したり、あるいは手城川の河川の掘削であるとか、瀬戸川などの整備を進めているところでございます。

こうして、国、県、そして市、関係者が協働して、まずはハード対策について進めているわけですけれども、さらにこの対策の仕方という面では、今後長期計画についても見直していく必要があると考えています。

そして、ソフト対策に関しても、今河川を管理する国とか県が作成する外水、河川の浸水想定区域というものを示していますけれども、それと、市が作成する、下水道管理からくる内水の浸水想定区域、これが今別々に公表されておりますので、住民から見れば、これらを適切・的確な避難行動に繋げるためには、こうしたリスク情報の提供の仕方としても、内水外水一緒にリスク情報として示していくということも重要であると考えておりますので、今後ぜひ市と協働して、このリスク情報を統合して、整理、公表していくための取組を進めさせていただければと思っているところでございます。

こうしたことも含めた、中長期的な計画の見直しについても連携をして進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

●市長

はい、ありがとうございます。知事がおっしゃいました、流域治水の考え方の重要性。そしてハードやソフトの両面において、県市が一層連携する必要があるというお考え、全くそのとおりだと思います。知事のお考えに賛同いたします。

少しだけ補足をさせていただきますが、平成 30 年７月の豪雨のお話に触れられました。福山も 2,000ha が水に浸かりまして、直後から、二度とこのような光景は見たくないということから「抜本的な浸水対策」を策定いたしました。国、県、市、土地改良区あわせて 172 の事業を進め、その中でも県には多くの事業を実施していただきました。先ほども言及がありました。改めて感謝を申し上げたいと思います。

その中でも、流域治水という意味では、手城川流域で、「100 ミリ安心プラン」というプランを、県と市が共同で作成し、国に申請をしました。これは県の御指導がなければなかなかそこまでいかなかったんですが、その結果、中国地方で 100 ミリ安心プランが初めて登録されました。これはまさに、今の流域治水の考えの先駆けとなる、そういうプランだったんですね。そういう意味で、今後も、県と市が協働して流域治水プロジェクトを県内で推進していくということについては、重要なことだと思っています。

それからソフト対策で県と市が別々のリスク情報を出すことよりも、一体的に情報を出すべきだという考えは、全くそのとおりだと思いました。実は内水のリスク情報については今年の３月に作成し公表したばかりなんですが、改めて県とどういう融合の仕方があるのか考えてみたいと思っています。

千葉豪雨等の都市型水害の課題に対して、全国の都市は脆弱であります。福山も現状は国の指導に基づいて計画降雨 42 ミリというレベルの対応をしているんですが、今回の関東を襲ったゲリラ豪雨はそれをはるかに上回る時間雨量でした。そういうものにこれからどう応えていくかという課題を我々は突きつけられていて、正にそれは国も同じ思いで、専門家による検討を行っている。そうした検討の結果を踏まえながらですね、また県の御指導もいただきながら、ゲリラ豪雨からどう都市を守っていくかと言うことに取り組んでいきたいと思っております。

そして最後に一点だけ付け加えさせていただきたいんですが、ため池のお話もございました。これはもう知事の得意分野でいらっしゃいまして、釈迦に説法なんですが、実は平成 30 年の時にため池が決壊して、３歳の幼子が亡くなりました。そして今回の６月に、新市でため池が決壊しました。幸いにも人的な被害は無かったんですが、肝を冷やしました。実は、福山市内には防災重点ため池が 1,052 ありまして、膨大な数のため池をこれからどう管理していくかという大きな課題に直面しています。これまでも県には劣化・豪雨診断や耐震診断をやってきていただいていますが、これを更に後押しするため、国の力を借りて、国営事業によるため池防災事業、これに福山はエントリーしまして、今回の新年度の概算要求の中にも、対象地区として名前を挙げていただいております。これをしっかりと予算化していきながら、県とともに、市内のため池の管理、安全性の確保につなげていきたいと思います。引き続きよろしくお願いいたします。

○知事

ありがとうございます。やはり防災、そして災害対応というのは、全ての生活、そして経済活動を含めてのベースになるものだと思いますので、当然しっかりと前に進めていかないといけないと思っていますので、よろしくお願いします。そしてため池についてもご指摘のとおり、たくさんございますので、危険性の高いところから優先的に、しっかり効果が上がるように県としても取り組んでまいりたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。